

EPRBioDose2022 Online に参加して

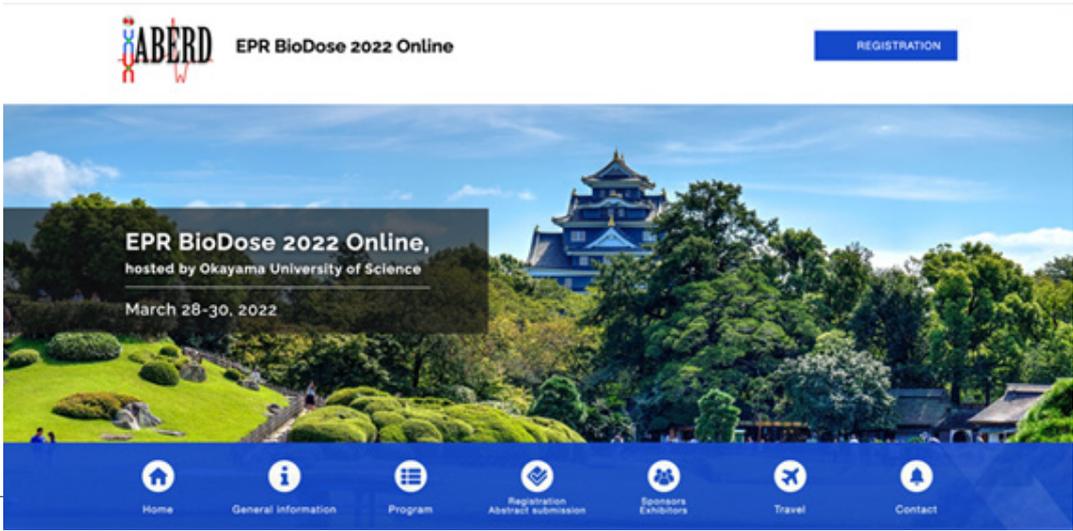
国立保健医療科学院 山口一郎

事故の際に受けた放射線の量を評価する方法として生体試料や生理学的試料を用いる方法がある。この方法には生物学的なものや物理的なものがあり、物理的な方法には電子スピン共鳴法を用いたものもある。これらの2つの線量評価法を扱う EPRBioDose2022 Online が国内組織委員会 (LOC) の運営により 2022 年 3 月に開催されたので報告したい。

EPRBioDose2022 Online は International Association of Biological and EPR Radiation Dosimetry (IABERD) の主催により開催された。EPRBioDose は、The International Symposia on EPR Dosimetry and Dating (EPR) と The International Conference on Biological Dosimetry (BioDose) が合同で開催されるもので、当初は、EPR の会合が 1985 年に開始されており、1998 年から拡大され BioDose の会合も含むようになった。

EPRBioDose2022 Online の前の開催は、EPRBioDose2015 であった。米国のダートマス大学で開催された EPRBioDose2015 では次回の開催に関して日本を含めて 3 カ所から提案があったがさらに検討が必要とされ翌年の学会員による投票に持ち越され、投票の結果、次回は 2020 年に岡山で開催することとされた (大会長は岡山理科大学の豊田新教授)。しかし、その後の Covid-19 の蔓延により延期され 2021 年にハイブリッド形式での開催が模索されたが状況が改善せず、完全オンラインで 2022 年 3 月に開催することが 2021 年 6 月に決定された。このように社会情勢が変化の中で開催のあり方に関して LOC でも継続的に議論されてきたが、かつて経験がない完全オンライン開催に向けての準備が求められた。

図 学会ホームページ



Proceedings of the 2022 EPR Biodose Conferences は、Radiation Protection Dosimetry で出版されている (199(14), 2023)。

1 <https://iaber.org/>

オンライン開催では、どのようなプラットフォームを用いるかを選択する必要がある。LOC では委員の一人である弘前大学の Anderson Donovan 特任助教（開催準備中は福島大学に所属）が使用経験のある Remo を用いることとした。結果として、満足のいく運営ができたが、準備や当日の運営において Donovan 先生が果たした貢献が極めて大きかった。また、オンラインでの開催となるため情報の円滑な共有が重要となるが、参加者向けには JAEA の岡壽崇先生と広島大学の廣田誠子先生が学会の web site を管理くださり（図）、運営スタッフ間では Slack を用いたがこれらもよく機能した。初めての試みであることからリハーサルでは IABERD の Scientific committee の方々にも多大な協力を頂いた。

EPRBioDose2022 Online には 22 の国・地域からおおよそ 130 人の登録参加者があり、5 つの招待講演と 67 のポスター発表があった。オンライン開催であったので、口頭発表での直前の演者と座長の確認に参加者も関わることができ、発表開始直前まで議論する場面もあった。また、ポスター発表ではオンラインの特性をいかして動画も利用可能となり工夫したプレゼン資料を楽しむことができた。さらにオンラインの開催であるので、Remo の機能を用いてプレゼン資料をインタラクティブに操作することで発表内容に対する検討を深めることができた。学会開催中に参加者を呼び出すことも容易でポスターの前での参加者間での議論で解決が付かないところは発表者を呼び出して質疑につなげることができるだけでなく、出展してくださっている企業のブースに常時、スタッフがいなくても会場内にいるのであれば参加者の求めに応じて容易に呼び出すことができ相談に応じてもらっていた。その一方でオンラインでの開催のためのトラブルへの対応も必要となった。筆者もリテラシーの不足からリハーサル時にマイクの接続に苦労したが、皆様からアイデアを頂き解決できた。中国からの参加者は Remo でのビデオ会議参加が不可となっていたので、急遽、LOC により Zoom を用いた中継を追加した。学会は好評でコンテンツの公開期間を延長した。

このように EPRBioDose2022 は Online で開催されたが、対面での学会を望む意見もあり、EPRBiodose Paris 2022 が 7 月 7 日から 10 日にフランスのパリで開催された。日本では対面で実施されなかったこともあり、EPRBioDose2024 は弘前大学で 2024 年 9 月 25 日から 28 日に開催が予定されている（大会長は三浦富智教授）。ご関心をお持ちの方の参加をお待ちしている。